先駆けを！　　夢の実現にむけて！

学校報　望洋

東海大学付属市原望洋高等学校
編　集：メディアセンター
2019年3月20日 第137号

第33回　卒業式を挙行

3月2日(土)、2018年度 第33回 卒業証書授与式を挙行しました。当日は、男子192名・女子105名、合わせて297名の卒業生が本校から旅立っていきました。今号では、式当日に読み上げられた答辞を中心に、各賞の受賞者と式典代表者を紹介して、卒業生たちの栄光を讃えます。

2018年度　第33回　卒業証書授与式　答辞

卒業生代表　3年8組　立花 知聖

答　辞

厳しい寒さもやわらぎ、春の暖かな陽射しを感じる季節となりました。本日は私たちのためにこのように盛大な卒業証書授与式を挙行して頂き、誠にありがとうございます。ご臨席を賜りました東海大学副学長山下泰裕先生をはじめ、校長先生、ご来賓の皆様方からのご祝辞、在校生からの温かい言葉を頂き、胸が熱くなる思いがしております。卒業生一同、心より御礼申し上げます。

三年前、私たちはこの場所で入学式を行いました。デザインの新しくなった制服を身にまとい、校名の変更された、東海大学付属市原望洋高校の一期生として、高校生活の第一歩を踏み出しました。あの日から三年、毎日が楽しく、充実していて、数えきれないほどの、沢山の思い出を作ることができました。

一年生の望洋研修。入学して間もなく、まだ、緊張感の残るクラスの友人たちとの、長縄跳びや合唱では、少しずつ緊張感も消え始め、クラスの団結力を深めることができました。そして、グループ討議や、三日間の寝食を共にする中で、仲間を知り、心を開いていくことができました。また、講話を通して、まだまだ幼い私たちに、高校生、望洋生としてどう在るべきかを、先生方が教えてくださいました。

二年生の研修旅行。ニライカナイの体験学習、海洋博公園のエメラルドビーチ、おきなわワールドでのエイサー鑑賞を通して、沖縄の壮大な自然や文化を、全身で感じることができました。平和学習では、戦争を体験された方の話を聞き、教科書では知ることのできない、戦争の姿を学ぶことができました。ひめゆり資料館に保存されている手記や、糸数壕の中を実際に目にすることで、戦争の惨禍を感じました。「戦争は絶対にあってはならない」という強い思いが、私たちの心に刻まれたことを忘れません。そして、今の生活がどれだけ恵まれたものなのかを再認識し、友人や家族と一緒にいられることに感謝をしようと、強く思いました。

三年生の、体育祭、建学祭、球技大会。すべての行事に、“高校生活最後の”という文字がつき、しだいに卒業が近づいていることが感じられました。体育祭や球技大会では、最後に花を飾ろうと、休み時間や放課後に練習を重ねました。全力でクラスメイトを応援する姿、一丸となって優勝を目指す姿に、仲間との絆がより一層深まっていくことを感じました。建学祭では、委員が中心となって指揮を執り、どのクラスも最高学年らしい、素晴らしい展示やステージを作り上げました。
意見をぶつけ合うこともありました。思うようにならず迷う日々もありました。しかし、それを乗り越え、完成させた日の達成感は、私の大切な宝物になりました。

また、この三年間は、私たちだけではなく、周囲の環境も大きく変化した三年間でした。一年次には、三号館のリニューアル工事が行われ、綺麗になった教室、新しくなった机と椅子により、集中しやすく、学習に対する意欲も増す環境となりました。二年次には、体育館のリニューアル工事が行われ、部活動や体育の授業を、より快適に行えるようになりました。三年次には、第

一グラウンドが人工芝と全天候型のトラックになり、部活動においては、より実戦に近い形で練習のできる環境となりました。

こうして振り返ると、市原望洋高校での日々は、私たちにとって本当にかけがえのないものであったことを改めて感じると共に、私たちを支えてくださった多くの方々に感謝の思いが募るばかりです。

このような三年間の歩みの中で、一番心に残っていること、それはクラスの仲間のことです。目標に向かって努力できる仲間。好奇心旺盛で、何事にも興味を持つ仲間。負けず嫌いで、切磋琢磨し合える仲間。そんな仲間がいたからこそ、何事にも挑戦し続けることができました。全力で取り組むことができました。プレッシャーに押し潰されそうになっても、必死に自分を信じて頑張り抜くことができました。このような仲間に出会い、三年間を共に過ごすことができて、心から嬉しく思います。

そして先生方は時に厳しく、時に優しく、見放さずに、最後まで熱心に指導してくださいました。けじめをつけること、社会で生きていくために必要なことを、沢山教えていただきました。先生方からの教えを、これからも大切にしていきたいと思います。またバスの運転手の方々には、毎日の登下校、行事、部活動等で日々を支えていただきました。事務員や用務員の方々にも大変お世話になりました。

そして何より、私たちを一番近くで支え、温かい目で見守り、育ててくれた家族に、心から感謝しています。沢山、迷惑や心配もかけましたが、その度に理解して励ましてくれた家族がいたから、今の自分が、あるのだと思います。十八年間、私たちに沢山の愛情を注ぎ、育ててくれて本当にありがとうございました。

最後になりましたが、今までお世話になりました、校長先生をはじめとする、諸先生方、友人、家族、在校生の皆さんに改めて感謝申し上げると共に、市原望洋高校の更なる発展を卒業生一同、心よりお祈り申し上げ、答辞とさせていただきます。

長い間、本当にありがとうございました。

二〇一九年三月二日

第三十三回　卒業生代表　立花　知聖

各賞受賞者

総長賞	３年８組　松本　七海
生徒会功労賞	３年３組　荒川　瑛旦
千葉県知事賞	３年８組　雲類鷲　大輔
千葉県私立中学高等学校協会賞	３年６組　臼井　達哉

式典代表者

答辞	３年８組　立花　知聖
送辞･生徒会記念品贈呈者	２年１組　菊池　勇太
卒業記念品贈呈者	３年４組　小沢　海来
生徒会記念品受領者	３年７組　内田　怜奈
同窓会資料受領者	３年１組　福原　友太

第 17 回 定期演奏会を開催（吹奏楽部）

吹奏楽部 部長　　３年７組　西川 晶洋

2018 年 12 月 24 日、吹奏楽部「第 17 回定期演奏会」を、市原市市民会館を会場にして開催しました。「感謝の気持ちを音で表現し、部員全員で最後まで走り抜けよう」という気持ちを込めて、今年度のスローガンは“響恩疾奏”としました。このスローガンのもと、部員一同がひとつの音楽を創り上げ、最高の演奏を聴いていただこうと日々練習に励んできました。今年度は、第１部～シンフォニック・ステージ～　第２部～ステージ・ドリル～　第３部～ポップス・ステージ～という構成で全 12 曲をお聞きいただき、ご来場くださったたくさんの皆様に盛り上がっていただきました。そして、３年生にとっては最後となるステージ、これまでの練習の成果を発揮すべく精一杯の演奏をお届けしました。ご来場いただいた皆様、演奏会を成功に導いてくださったすべての皆様に感謝申し上げます。

研修旅行を実施（2 年生）

3 月 5 日(火)～9 日(土)（先発団 3/5～8、後発団 3/6～9）、沖縄への研修旅行を実施しました。先発・後発団共に 10：35 羽田発の ANA469 便で出発。3 泊 4 日の行程で沖縄の各地を巡り、体験学習・平和学習を行い、文化を学びました。行程 2 日目の美ら海水族館では沖縄の海洋資源の豊かさに触れ、3 日目の平和祈念堂・ひめゆり資料館・糸数壕では戦争の悲惨さと平和のありがたさを実感し、今まではイメージだけの存在であった沖縄を、身近に感じる毎日でした。

「充実した４日間」　　**2 年 7 組　伊藤 隼平（先発団委員長）**

皆さんにとって研修旅行は充実した楽しいものになったでしょうか？ 私は皆が心から楽しいと思える研修旅行にしたくて委員長に立候補しました。旅行委員をはじめ先発団の皆が協力してくれたことで、委員長の任を果たせました。旅行中、平和について考える機会が多くありました。戦争を体験した方の話を聞き、糸数壕に入って当時を追体験するなど、貴重な経験をしました。嘉手納基地や普天間飛行場を間近で見て、戦後がまだ終わっていないことも感じました。楽しいこともたくさんありました。美ら海水族館やエメラルドビーチ、体験学習もいい思い出です。ホテルもきれいで、快適に過ごせた楽しい 4 日間となりました。

「研修旅行を終えて」　　**2 年 4 組　藤村 陽輝（後発団委員長）**

研修旅行の 4 日間で多くのことを学びました。今まで深く知らなかった戦争のことも、体験者の話を聞いて知ることができました。糸数壕に入り、当時の人の気持ちを知る追体験ができたことも良い経験になりました。平和について、命について考える充実した日々でした。旅行中は後発団全員が常に 5 分前行動を心掛け、スムーズな全体行動をとることができました。研修旅行委員長として、皆のことをしっかりまとめることができて安心しています。研修旅行で学んだことを、これからの学校生活に活かしていけるように、決して忘れないように意識しながら過ごしていきたいと思います。

芸術鑑賞会を実施

11 月 16 日(金)、3 年生を対象とした芸術鑑賞会を実施しました。今年は、帝国劇場で上演されているミュージカル「マリー・アントワネット」を鑑賞。18 世紀フランスのルイ王朝末期の社会状況を背景として、フランス革命に散った主人公、マリー・アントワネットの数奇な人生を描きます。当日の舞台は、観劇する私たちを魅了するものとなりました。

「芸術鑑賞会に参加して」　　**3 年 2 組　齊藤 萌 ・ 中村 綾香**

ミュージカル「マリー・アントワネット」を鑑賞して、私は二つのことを思いました。一つ目は、俳優の一人ひとりが完璧に役になりきっていて、私たちの心に響いてきたことです。マリー・アントワネットが生きていた時代がどんな時代だったのかが伝わり、心が痛くなりました。

もう一つは、さまざまな登場人物の衣装が、細かくとてもきれいだったことです。舞台セットも、実に見事に当時の風景を再現していて、いろいろな演出が織り込まれていて、とても見応えがありました。また、歌声も迫力があり感動しました。

マリー・アントワネットのように、世間を知らないということはとても怖いことだということも、わかりました。

球技大会を開催

12 月 14 日(金)、球技大会を開催しました。当日はソフトボール、ミニサッカー、バレーボール、ドッジボールの各部門で競いました。1 年生から 3 年生まで、学年を問わずトーナメント戦を繰り広げ、白熱した試合を展開しました。

「ソフトボール優勝！」 **2 年 6 組　井桁 響己**

チームでソフトボールを楽しむことができ、かつ優勝できたことで、とても良い思い出となりました。私は、1 年ぶりにボールを投げたり、バットを振ったりしましたが、しっかりプレーすることができ、チームに貢献することができました。また、全員が活躍し、特に野球部は、やはり動きが少し違い、大活躍していました。このチームでソフトボールができてとてもよかったです。また機会があればみんなで楽しくプレーしたいと思います。

「クラスの一歩」 **2 年 6 組　木村 友香**

2 年 6 組は、ドッジボールで優勝することができました。私たちのクラスは全員運動ができるとは言えませんが、このような結果を出せたのは、担任の加藤先生と 43 人全員が、力を合わせて臨んだからです。体育祭や建学祭を経て深まった絆が、今回の球技大会でも発揮されたのだと感じています。4 月には、別々のクラスに散らばっていく仲間たちですが、最後の 1 日までとことん楽しみ、充実した 1 年を締めくくりたいと思います。

「二度目の正直」 **3 年 8 組　杉本 将太**

高校生活最後の球技大会は、優勝という輝かしい結果で幕を閉じました。昨年は、体力不足が露呈して大敗。悔しくて涙を流す者もいました。この悔しさをバネに、1 か月以上前から朝練などの自主練習に取り組みました。そして、各自が課題を克服し、優勝という最高の形で終えることができました。体育祭・建学祭と一つひとつの行事のたびに一団となれるクラスだからこその優勝だと感じています。高校生活の集大成が笑顔で終われたことが一番の思い出となりました。

東海大学情報通信学部・海洋学部 説明会に参加

1 月 19 日(土)、東海大学高輪キャンパスで情報通信学部の、また 1 月 26 日(土)には清水キャンパスで海洋学部の説明会を実施しました。これは、将来の付属推薦入学を念頭に、希望に沿った実りある進路選択を実現するために実施したものです。当日は多くの希望生徒が参加し、充実した 1 日を過ごしました。

「情報通信学部の見学を経て」 **2 年 5 組　木原 彩葉**

情報通信学部では、情報を「表現する」、「動かす」、「活かす」、「繋げる」というテーマを各学科が掲げ、実習を多く取り入れたプログラムが構成されていました。私はこの点に大変魅力を感じました。体験授業では「知って得する統計学」というテーマのもと、スマートホンにリアルタイムで表示されるデータ情報の通信技術や、最新技術「VR」の映像体験などを経験することができました。今後、より情報化していく社会の中で、情報通信学部の技術がいかに必要かということを感じました。

「海洋学部説明会に参加して」 **2 年 7 組　松田 真希**

海洋学部の説明会に参加して、海洋学部ならではの体験を通じて、学科一つひとつの違いを知ることができました。海洋学部と聞くと「理系」というイメージが強かったのですが、文系学科や文系に関連する科目も多くあり、とても衝撃的でした。これからは、理系の科目だけではなく、文系の科目の勉強もしっかりとしていかなくてはならないと感じました。今回の説明会に参加して、自分の将来に向けて、良い結果を得られるように頑張りたいと思いました。